

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 金沢市立粟崎小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒920-0226
石川県金沢市粟崎町へ78

E-mail : <http://www.kanazawa-city.ed.jp/awagasaki-e/>

Website : awagasaki-a@kanazawa-city.ed.jp

児童生徒数：男子 241 名 女子 260 名 合計 501 名
児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (福祉)

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

①学校全体の概要

粟崎の地域の特色（砂丘地・五郎島金時・スイカなどの農産物、獅子舞・奴などの伝統文化、障害者や高齢者対象の福祉施設）を素材とし、地域の「ひと・もの・こと」について調べたことを、自分の言葉で表現し、友だちと話し合いながら、新たな問いをたてる。さらに自らたてた問いについて、資料で調べたり、地域で生き抜いてこられた方達の経験を知りながら追求したり、自分が地域でどのように生きていくべきかについて考えたりすることを目的としている。

また、地域の方に本校での取り組みを説明し、よりいっそう地域交流を図る「ESD連携推進会議」を実施したり、1年間の学習成果を、保護者や地域の方に発表する「ESD発表会」を行ったりした。

本年度も発表会は、低・中・高学年のくくりで行い、異学年と交流した。

②各学年の取組

1年 粟崎となかよし	}	生活科を中心に取組んだ
2年 粟崎をたんけん		
3年 粟崎のよさを見つけよう		
4年 誰もが住みよい町づくり		
5年 砂とともに生きる町・粟崎		
6年 人とのつながりの中で生きる		

1年生は、生活科単元〈むかしあそびをしよう〉を中心に学習を進めた。実際に学校の道具で昔遊びを体験し、その後、地域の名人さんに教えてもらった。すると、もっと挑戦しようという意欲が高まり、その後の「年長さんをむかえる会」にも意欲的に取り組むことができた。その際、相手意識をもった練習ができた。ESD発表会では、協力してくださった昔遊びの名人さんや、保育園の園長先生や2年生を対象に、グループ毎に昔遊びの発表をした。体育館に設定した各遊びコーナーで、相手に分かりやすく遊びのコツを説明することができた。

2年生は、社会福祉施設「夕凧苑」へ訪問して、お年寄りの方と交流した。お年寄りに喜んでもらえるように、折り紙・あやとり・すごろく・トランプ・お手玉などのゲームを考え、自己紹介・司会・かたたたき・ゲームの説明の練習をグループ毎に行った。当日は、練習の成果を生かし、楽しく交流できた。ESD発表会では、交流の様子・職員の方たちの仕事の様子・夕凧苑の設備・一日の過ごし方などを、絵や表・実物・クイズなどを使ったり、動作化したりして、わかりやすく伝えるための工夫をし、相手を意識して大きな声で伝える姿が多く見られた。

3年生は、〈粟崎のよさを見つけよう〉をテーマに、粟崎の地域探険をして、分かったことを白地図に書き加えたり、獅子舞・奴行列保存会の方の実演を見たり、五郎島金時の生産者の方の思いや願いを聞いたりした。その後、自分のテーマに沿って、調べ活動に取り組み、地域の伝統文化や誇れる特産品について理解を深め、大切にしようという思いをもつことができた。そして、学習内容を壁新聞にまとめ、4年生・保護者・地域の方に発信できた。また、大野町小学校と、「獅子舞」を中心に学習の交流を行った。

4年生は、〈だれもが住みよい町づくり〉をテーマに、バリアフリーの学習に取り組んだ。点字学習器・アイマスク・車椅子・お年寄り体験用の器具等を使

って、様々な立場を体験し、自分達の町は体の不自由な人やお年寄りにとって住みよい町かを調べる学習に取り組んだ。地域にある、体の不自由な人やお年寄りための施設を訪問して、暮らしやすくするための工夫や支える人々の思いについて学んだ。その後、調べた内容や自分たちの考えを、壁新聞や紙芝居、ペープサート等の様々な方法でまとめ、3年生や保護者・地域の方に発信した。5年生は、〈砂とともに生きる町粟崎〉をテーマに取り組み、4月から地域のゲストティーチャーの協力を得ながら、スイカの栽培に取り組んだ。児童は、曜日ごとに当番を決めて水やりをしたり、定期的に雑草を抜いたり、観察記録をつけたりし、7月には収穫の喜びも味わうことができた。後期には「加賀野菜」である「源助大根」を栽培し、収穫後に、地域の方に漬け物にする方法を習った。それと並行して、他の加賀野菜についても特徴や歴史、調理の仕方などについても調べ、プレゼンテーションにまとめ、ESD発表会で、6年生や保護者・地域の方に発信した。

6年生は、〈人とのつながりの中で生きる〉をテーマに、6年間の総まとめとして、粟崎からさらに発展させ、金沢について理解を深める学習を行った。初めに、百万石祭りについて調べ新聞にまとめた。伝統ある祭りが今後も続いてほしいという思いを持った児童が多かった。その後、金沢城や武家屋敷、兼六園など、金沢の歴史が分かる場所の見学や、金箔貼りの体験を行ったことで、金沢の伝統のすばらしさや守っていくべきものについて思いをもつことができた。その思いをもとに、金沢の伝統や名所についてさらに詳しく調べ、これから自分はどうしていきたいのかを考え、プレゼンテーションにまとめ、5年生や保護者や地域の方に発表した。また、金沢市が日本で唯一「世界歴史都市」と「ユネスコ・クラフト創造都市」の両方に選定された理由を調べ、まとめる活動も行った。

③地域との連携

本年度も、地域とのつながり生かしていくために、これまで同様 ESD 推進連携会議を開き、地域の理解・協力を得るようにした。継続して開催してきたことから、子どもたちは、地域と多くのかわりをもちながら学習を進めた。そして、12月にESD発表会を開催し、かかわってくれた地域の方を招き、自分達が行ってきた学習内容を発信することができた。発表会に際しては、各学年で、「内容・話し方・聞(聴)き方」の3つの観点で、系統立てたねらいと評価規準を明確にし、参観者からも評価をもらった。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



UNESCO
Associated
Schools